

氏名	吉 良 正 道
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1 1 9 5 号
学位授与の日付	昭和56年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	簡易 TeBG 測定法と % TeBG Testosterone, Estradiol 結合率測定法について
論文審査委員	教授 産賀敏彦 教授 大藤 眞 教授 佐伯清美

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

より簡便で信頼性の高い TeBG (testosterone-estradiol binding globulin) 値および T (testosterone), E<sub>2</sub> (estradiol) の % TeBG 結合率の同時測定法を考案するとともに, その基礎的検討を行った。

TeBG 値の測定は <sup>3</sup>H-DHT (dihydrotestosterone) 5ng/0.1ml 血清(妊婦血清は  $\frac{1}{8}$  ~  $\frac{1}{10}$  倍希釈)に incubation の後 60%飽和硫酸 0.5ml を加え, 遠沈後上清 0.2 ml の放射活性を求め対照との差より計算した。測定値は従来の報告と一致した。又, 高濃度の DHT を加えることにより, 対照との DHT 非結合との差がより広い範囲で測定可能となり, 誤差も少なくなった。

T, E<sub>2</sub> の TeBG %結合率は従来の報告に依れば操作が繁雑で, 希釈血清を用いることが多かったが, TeBG 測定とほぼ同様の簡易硫酸塩析法で測定することにより, 無希釈血清を用いることが可能となった。その結果, 本法の T % TeBG 結合率は従来の報告と一致した。E<sub>2</sub> % TeBG 結合率についてはその報告もほとんどなく, 今後の検討を要した。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はテストステロン-エストラジオール結合グロブリン及びこれらホルモンの結合率の簡易測定法を確立したものであって, 産婦人科領域のみならず広く内分泌学領域において応用されうる価値ある研究業績と認める。

よって, 本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。